

“市民による市民のための映像祭”「東京ビデオフェスティバル2017」

入賞作品として「TVF2017 アワード」(40 作品) を決定

- 応募総数 135 作品、6～85 歳まで幅広い世代が応募
- 20 代までの若い世代 (20 作品) と 60 代以上のシニア世代 (15 作品) が入賞を分け合う
- ドキュメンタリーから 35 作品 (入賞全体の約 9 割) が入賞
- 入賞者・ビデオファンが集う「TVF2017 フォーラム」を開催 (2 月 11 日(土)・12 日(日))
～「ビデオ大賞」(1 作品) を審査委員が決定・発表する「公開審査会」を初日に開催～

特定非営利活動 (NPO) 法人「市民がつくる TVF」(代表理事:小林はくどう) が主催する、今年で 39 回目を迎えた“市民による市民のための映像祭”「東京ビデオフェスティバル 2017」(TVF2017) には、135 作品が寄せられ、このたび、応募作品の中から入賞作品となる「TVF2017 アワード」の 40 作品を決定しました。入賞 40 作品は、今回を象徴する作品に贈られる「ビデオ大賞」(1 作品) へのノミネート作品となります。「ビデオ大賞」は審査委員による「公開審査会」(後述) にて決定・発表します。

そして今年も、入賞者とビデオファンが集う一大イベント、「TVF2017 フォーラム」を来る 2017 年 2 月 11 日 (土)・12 日 (日) の 2 日間にわたって開催します (会場:武蔵大学 江古田キャンパス * 一般開放・入場無料)。「TVF2017 フォーラム」では、「TVF2017 アワード」に選ばれた 40 作品を題材として取り上げながら、入賞者とともに来場者も交えて、会場全体で映像制作について語り合います。

「TVF2017 フォーラム」の初日には、「ビデオ大賞」を審査委員が決定・発表する「公開審査会」を実施。また同日、「TVF2017 アワード」の表彰、特別賞の「筑紫哲也賞」「サポーター賞」の発表・表彰も行います。

■「TVF2017 フォーラム」の概要 (予定)

- [日 時] 2017 年 2 月 11 日 (土) フォーラム、入賞・特別賞の表彰、公開審査会、交流会
12 日 (日) フォーラム
- [会 場] 武蔵大学 江古田キャンパス (住所:東京都練馬区豊玉上 1-26-1)
- [参加費] 無料 ※交流会は有料。

■「ビデオ大賞」「特別賞」の決定・入賞者の表彰

- ・「ビデオ大賞」の決定・発表:「TVF2017 フォーラム」初日、審査委員による「公開審査会」にて。
- ・「特別賞」の発表:「TVF2017 フォーラム」初日の授賞式にて。
- ・「TVF2017 アワード」の表彰:「TVF2017 フォーラム」初日の授賞式にて。

「東京ビデオフェスティバル 2017」応募作品・応募者の概要

1. 応募総数

応募総数は 135 作品（全て国内）。

2. 最年少応募者／最年長応募者^{※1}

最年少応募者：6 歳、最年長応募者：85 歳。

※1：団体応募や不明者は除く。

3. 性別・世代別傾向^{※1}

- ・男性からの応募が 67 作品（約 56%）、女性からは 52 作品（約 44%）。女性の割合が前回(24%)と比較して大幅に増加。
- ・高校生・大学生を中心とする 20 代までの世代から 69 作品（約 51%）、60 代以上のシニア世代から 45 作品（約 33%）。今回も両世代からの応募が中心となっており、あわせて全体の 8 割以上を占める結果となった。

4. ジャンル別傾向

ドキュメンタリーが最も多く 94 作品となり、全体の約 70%。次いでドラマが 30 作品（約 22%）、CG／アニメーション／アートが 11 作品（約 8%）。

「東京ビデオフェスティバル 2017」入賞作品・入賞者の傾向

1. 20 代までの若い世代と 60 代以上のシニア世代が入賞を分け合う

今回も 17～84 歳までの非常に幅広い世代が入賞しています。20 代までの若い世代（13 作品）と 60 代以上のシニア世代（15 作品）で、入賞を分け合うかたちになりました。

2. ドキュメンタリーから 35 作品（全体の約 9 割）が入賞

応募の約 7 割を占めたドキュメンタリー作品は良作揃いで、35 作品が入賞（全体の約 9 割）。この傾向は「TVF」の特長でもあり、近年、さらに定着してきています。

3. “戦後 70 年”を経て、改めて「戦争」に向き合った作品が目立つ

“戦後 70 年”のタイミングもあってか、ここ 2 年ほどにわたり、「戦争」をテーマとした作品が多く寄せられています。今回は、その“戦後 70 年”を経て、改めて戦中・戦後を見つめる、といった「戦争に向き合う」作品が多く入賞しています。

4. 今を考え、立ち向かう“闘う映像”とも言うべき作品群

変化や多様化する社会、今ある自分や過去の自分等、目の前にある“今”について考えたり、立ち向かったりする、まさに“闘う映像”とも言うべき作品が入賞しています。今回、「TVF」の新しい流れとして注目される作品群です。

5. 身近な「地域」や、その「文化」「自然」に目を向けた作品

身近な地域に目を向けた作品が入賞しています。地域の伝統・文化、自然・環境をテーマとして取り上げ、じっくりと追った作品が特徴的です。

6. 人を見つめる作品

今回も「人」に目を向けた作品は多く寄せられ、良作が入賞しました。家族等の身近な人物、地域の人物、あるいは自分自身等にカメラが向けられています。

■入賞作品の公開（Web 配信）>

- ・当法人ホームページにて入賞 40 作品を公開中（Web 配信）

当法人ホームページにて、入賞 40 作品の映像^{※2}と作品解説を公開中です。

※2：応募者の都合により、映像公開していない作品もあります。ご了承ください。

- ・「東京ビデオフェスティバル」公式ホームページ（NPO ホームページ）URL

URL <http://tvf2010.org/>

■「東京ビデオフェスティバル」審査委員（50 音順・敬称略）

大林 宣彦（映画作家）

小林 はくどう（ビデオ作家・成安造形大学客員教授）

佐藤 博昭（ビデオ作家・日本工学院専門学校講師）

高畑 勲（アニメーション映画監督）

村山匡一郎（映画評論家）

（アドバイザー）

椎名 誠（作家）

羽仁 進（映画監督）

<NPO 法人 市民がつくる TVF について>

NPO 法人 市民がつくる TVF は、31 年間の歴史を持つ国際的な映像祭「東京ビデオフェスティバル」（TVF/日本ビクター主催・2009 年 3 月閉幕）の精神を継承し、市民有志が集まって結成した団体です（設立：2009 年 11 月）。ビデオ作品の制作や発表機会を通じて、映像によるコミュニケーションの活性化を図る活動を行っています。

<東京ビデオフェスティバルとは>

「東京ビデオフェスティバル」は、ビデオメッセージの伝達と表現力の向上を目的に 1978 年以来通算 39 回継続開催となる映像祭です。当 NPO の主催となって今年で 8 回目を迎えます。

本件に関する報道関係窓口

特定非営利活動法人 市民がつくる TVF 事務局 問い合わせ窓口

E-mail : npotvinfo@gmail.com

TEL : 070-4150-2167

FAX : 042-670-7085

* 記事中の読者様の問い合わせ先も上記でお願いいたします。

< 「TVF2017 アワード」 (40 作品) 一覧 >

NO	作品名	作者名	年齢	作品時間	都道府県
1	生き直す馬たち ～モモセファームの一年間～	北星学園大学放送研究会 ジャーナリズムチーム		16 : 08	北海道
2	カメラを持って飛び出そう	ここりカ・プロダクション		9 : 28	北海道
3	留萌沖の戦慄 in 1945	有沢 準一	79	19 : 59	北海道
4	烈夏七夕まつり —100年続く市民のまつりをめざして—	北海道旭川工業高等学校 KBS 旭工放送局		13 : 40	北海道
5	先生、かっこいいじゃん！	石川 勝	62	20 : 00	栃木県
6	消えゆく 村の記憶	内田 一夫	80	19 : 10	埼玉県
7	バッジが伝えるもの	埼玉県立川越高等学校放送部		14 : 00	埼玉県
8	僕らの出番がきつとくる	永井 美千代	69	14 : 35	千葉県
9	いっぱい食べんさい ～広島のマザーテレサと子どもたち～	松本日菜子・高橋 惟・相田真弘 上智大学水島ゼミ	21/21 /20	13 : 40	東京都
10	美しき過疎	梨元 萌衣 法政大学水島ゼミ	20	19 : 59	東京都
11	がんと闘う～1年の記録～	春見 書紀	79	15:10	東京都
12	キミの隣のボクへ -Focus on Myself-	Focus on Myself (小林 令奈 慶応義塾大学)	20	19 : 35	東京都
13	軍属だったひいおじいちゃん	松本日菜子・和田 楓・瀧上志帆 上智大学水島ゼミ	21/20 /22	17 : 29	東京都
14	ケガと弁当自分持ち！ ～生き物をつなぐ コミュニティガーデン～	林原 あずさ 法政大学水島ゼミ	21	15 : 34	東京都
15	STILL LIFE	土屋 貴聖	23	19 : 53	東京都
16	ターゲットクリア？	江戸川女子中学校放送部		6 : 55	東京都
17	たま ～現存する最古の電気自動車～	神野 菜々 中央大学 FLP 松野良一ゼミ	21	10 : 00	東京都
18	日本軍最後の「兵器」	鈴木 賢士	84	12 : 15	東京都
19	8年前を歩く	春名 美咲 法政大学水島ゼミ	21	19 : 47	東京都
20	福島県教職員組合 双葉支部の心	湯本 雅典	61	20 : 00	東京都

NO	作品名	作者名	年齢	作品時間	都道府県
21	ラグ車 前へ ～車いすで挑む自立支援の道～	蒲 宏樹	69	17 : 22	東京都
22	私は負けない	手塚 三郎	80	10 : 56	東京都
23	愛するということ	齋藤 佳憲 神奈川県立弥栄高等学校	17	20 : 00	神奈川県
24	青根っこ	白井 由貴子	68	10 : 00	神奈川県
25	重荷を負うて	大隅 楠夫	73	7 : 48	神奈川県
26	帰路	森田 夢理歌	18	15 : 21	神奈川県
27	ここにいる	高山 直美	44	16 : 12	神奈川県
28	静かな熱いメッセージ	御法川 直樹	57	11 : 17	神奈川県
29	STOP!! ながらスマホ	神奈川県立相模田名高等学校 交通安全隊		3 : 20	神奈川県
30	種をまく人 ～新しい農業への挑戦～	金子 喜代子	77	12 : 14	神奈川県
31	島民の本音	仲澤 大夢 法政大学水島ゼミ	22	13 : 43	神奈川県
32	新発田川の上で ～公設鮮魚市場の人々～	敬和学園大学一戸ゼミ		7 : 55	新潟県
33	Nikkei Burajirujin	藤井 アマンダ 奈瑠美 成安造形大学	20	6 : 44	滋賀県
34	粘菌の森	大内 清樹 成安造形大学	35	12 : 48	滋賀県
35	The Stream VI	櫻井 宏哉	58	6 : 52	京都府
36	ひまわり	堀 皓二		10 : 00	大阪府
37	集団自決～鯨の戦士の悲話	松田 治三	80	15 : 50	広島県
38	忘れられた魂～宮島の原爆死者たち	広島経済大学徳永ゼミナール		19 : 55	広島県
39	ふたりの登り窯	大野 進二	75	19 : 46	山口県
40	もう一つの北高祭	中野 志保・神代 海央 佐賀県立佐賀北高等学校	18	3 : 14	佐賀県

注)・作者名敬称略。団体入賞のうち年齢表記のあるものは、代表者の年齢。

・北から都道府県順・作品名の50音順で記載。